

こまつてんまんぐうほんでん いし ま へいでん はいでん しんもん
小松天満宮本殿・石の間・幣殿及び拝殿，神門

種 別	重要文化財 建造物
指定年月日	昭和 36 年 6 月 7 日
所 在 地	天神町 (小松天満宮)

小松天満宮は、前田利常が小松城に隠居した際に、前田家の氏神として京都の北野天満宮の末社を勧請したのが始まりである。明暦 3 年 (1657 年) に創建され、棟梁は那谷寺も手がけた山上善右衛門である。

<本殿・石の間・幣殿及び拝殿>

本殿と幣殿・拝殿を、石の間という一段低い建物でつなぐ権現造りという様式で建てられており、北野天満宮を 4 分の 1 に縮小したものとされる。また社殿は南面し、小松城に向かうように建てられている。

本殿は入母屋造りで、桁行 5.4 メートル、梁行 3.6 メートル、内部は黒漆塗りである。正面にある幅 5.4 メートルの欄間には松竹梅などの透かし彫りが彫られ、極彩色に着色されている。石の間は、床は板張りだが低く、天井が無く小屋裏を見せているのも特徴的である。拝殿は桁行 12.6 メートル、梁行 3.6 メートルと、4 棟の中で最も幅広で、屋根正面には千鳥破風が付けられる。

<神門>

本殿の東方に建ち、冬至の日の出が神門から本殿に差しこむように配置されている。門柱の前後に控柱を 2 本ずつ配した四脚門で、全面に朱塗が施され、屋根は銅板葺きの切妻屋根である。小規模だが、唐様の建築様式をよく表し、均整の取れた門である。



本殿・石の間・幣殿及び石の間



神門